点訳フォーラムＱ＆Ａ

2020年４月～2021年３月版

第４章　記号類の使い方

その１　句読符

１．p98　1. 句点

文末に疑問符と句点が続いているものがありました。疑問符と感嘆符が続いている場合はどちらも点訳しますが、疑問符と句点の場合、どのように処理するのでしょうか。初めて見たときは、誤植、本来の用法ではないのでは、と判断して疑問符だけを残し句点は無視しました。再び同様のものが出てきましたので不安になっての質問です。

（例）「お連れ？。お連れは誰でもよい。」

【Ａ】

日本語の一般的な書法では、「疑問符・感嘆符は基本的に文章の終止を表すため、その後ろに句点は用いない」とされています。点字では、疑問符と句点、感嘆符と句点は続けて用いることはしませんので、疑問符だけを書きます。

２．p98　１．句点

次のような文章で第１カギの中に句点の記号をそのまま書くことはできますか。

俺と彼女の恋愛は円満ではなかったにせよ、着実な「。」を打つことができた。

ちなみに、同じ本の中で「一同が会した黄昏は、青春のエピローグである金属バットの快音を響かせながら、静かに句点を打った。」という文章もあります。

【Ａ】

第１カギの中に句点だけを書くことは、できないことではありませんが、一般の読み物の中では、読みやすさも考えて、「クテン」「ピリオド」「マル」などと言葉で書いた方が自然に読めると思います。文脈から言葉を選んでください。

３．p99　２．疑問符・感嘆符

疑問符の後のマスあけについてお尋ねします。

「よく知ってたわね。あたしが古村白水の名前を口にすると、へえ、あんた、クリーニング屋の孫なわけ？　なんて言ってくる馬鹿がいるくらいなんだから」という文があります。原本では疑問符のあとに空白があり、その後に「なんて」という助詞がきますが、この場合疑問符のあとのマスあけはどうすればよいのでしょうか。疑問符の後に助詞があるので一マスあけなのか、疑問符の後空白があるので一旦文章が終わっていると考えて二マスあけにしてよいのでしょうか。

【A】

この場合、疑問符の後二マスあけでよいと思います。

「なんて」には確かに「などと」という意味の助詞もありますが、前の文や語句を全部受けて、文頭に「なんて～」と書く用い方もあります。この場合、「へえ、あんた、クリーニング屋の孫なわけ？」という文全体を受けていますので、疑問符で文が終わったと解釈することができると思います。

「てびき」p100の上の［参考］にあるように、疑問符・感嘆符は本来文末に用いる記号ですので、あきらかに文の途中でない限り、後ろを二マスあける方を選択するようにします。

４．p99　２．疑問符・感嘆符

「おもしろそう、やらせて！やらせて！と頼み込み、二人で打ち水遊びをしました。」

この場合の一つ目の感嘆符の後ろは一マスあけですか、二マスあけですか。

【A】

非常に微妙な例ですが、一つ目の感嘆符の後は二マスあけにした方がよいと思います。

疑問符・感嘆符の後ろは、まず二マスあけと考え、「明らかに文中の場合」だけ一マスあけにします。「てびき」p100の上の【参考】に、文中かどうかは疑問符・感嘆符を取って判断するとありますが、この場合、最初の「おもしろそう、やらせて！」のあとが文の途中と言えるかどうか、非常に微妙です。

「明らかな文中」の例として、てびきで挙げているのは、

「あっ！■と■叫んだ。」「その■犬は■しつけが■よい？■ため■･･･」の２例で、このほか、たとえば「一病？■息災」など、複合語の中に使われている場合も一マスあけになると思います。

今回ご質問の例は、以上の例のように明らかな文中とまでは言えないので、「てびきＱ＆Ａ」Ｑ87の説明にあるように「文末か文中か判断できないのであれば、本来の用法である文末とみなして」二マスあけで点訳した方がよいと思います。

５．p99　２．疑問符・感嘆符

疑問符の後のマスあけについて教えてください。

①　～だけど覚えてる？って　あほか～

②　～を指している？と、いうか～

①②共に助詞が続いていますが文中か文末か。どのように判断したらいいでしょうか。

また、１字分のスペースに!!!!とありますが、４つ続けて書いてもいいのでしょ

うか。
縦書きで１行に下のように書いてある場合
!!
!!
!!

!!
?!
!!
これは、!!■!!■!!　!!■?!■!!とするのでしょうか？
【A】
①②ともに疑問符の後は一マスあけになります。ともに後ろに助詞が続いていますし、文中と言えると思います。「てびき」ｐ100の上にある［参考］の最後の一文にあるとおり、疑問符を取ってみると
①　～だけど覚えてるって　あほか～
②　～を指していると、いうか～
となり、疑問符が文中にあることが分かると思います。
感嘆符が！！！！ と４個並んでいる場合、「てびき」p100の下の［参考］にあるとおり、疑問符・感嘆符は複数続けて書くこともできますので、前の語に続けてマスあけせずに感嘆符を４個書いてもよいと思います。
縦書きに、２個ずつ感嘆符・疑問符が続いている場合、前の語に続いているときは、マスあけをせずにすべての感嘆符、疑問符を続けて書いてよいと思います。
語に続けて　！！！！！！
または、前の語に続けて　！！？！！！　となります。
１行に、この感嘆符、疑問符だけが書かれている場合は、［参考］にあるとおり、記号だけを書くことは避けます。
最も簡略な書き方は
■■（感嘆符）
や
■■（感嘆符と疑問符）
となりますが、点訳挿入符を用いて詳しく
■■点挿 感嘆符が一文字分に２個ずつ、合計６個 点挿
や、
■■点挿 一文字分に、感嘆符が２個、感嘆符と疑問符、感嘆符が２個 点挿
などと書く書き方もあると思います。
いずれにしても記号だけが並んでいる場合は、記号を言葉に換えて書きます。

６．p101　４．中点

中点のことで質問があります。

指導者ハンドブックのコラムに、「一般に中点は名詞の並列に用いる」とありますが、最近は色々なところで使われており、その度に悩みます。

以下、中点はどう点訳したら良いでしょうか。

１　集中力を保つ・高めることは簡単だ。

２　「うまい・甘い」と感じる。

３　自分でできる・学校でできる対策

４　５年間・３万人を調査した。

５　「ゆっくり・穏やかに・息を続けて」呼吸する。

【A】

中点は、基本的には名詞の語の並列に用いる記号です。が、近年、墨字の表記が非常に乱れていますので、点訳に際して悩む場面が多くなっていることは確かです。ただ、名詞以外の動詞や形容詞の語の並列でも、または「自分でできる」のようないくつかの文節からなる語句でも、原本に並列の用法で用いられている場合は、他の記号に置き換えることも難しいですし、二マスあけも分かりにくいので、中点を用いるしかないと思います。

１～５のなかで４．は一マスあけがよいと思いますが、ほかは中点を用いるしかないと思います。

自分で点字・墨字の文章を書く場合は正しい中点の用い方に注意してくださいという意味でのコラムです。点訳挿入符内の説明や点訳書凡例を書く場合には、記号類は正しく用いるようにしたいと思います。

その２　囲みの記号

１．p104　1．カギ類

１．原本で通常の会話文は「～」で囲まれ、電話の相手の会話は『～』で囲まれています。『～』内部には「～」で囲んだ語句もあるのですが、原本通り『～』にふたえカギを用いてよいでしょうか。または別の処理をした方がよいのでしょうか。

２．原本では一貫して〈～〉で囲まれている語句がありますが、点訳上、地の文に出てくる場合と、会話カギの中に出てくる場合で、異なる囲み記号になってもよいのでしょうか。

【A】

１．ふたえカギは、カギの中にカギが必要な場合と「てびき」p106【備考】の場

合に用いますので、会話文に『～』が用いられている場合は第１カギに置き換えるのがよいと思います。文脈上、特殊な場合に『～』が用いられるなど、区別の必要があれば、第２カギを用います。その場合は、内部の「～」をふたえカギに点訳するのがよいと思います。

２．一般に会話文に第１カギを用いた場合、そのほかの強調には第２カギを用いるのが自然ですが、原文に使われているカギの種類が多い場合は、会話文以外の強調に第１カギと第２カギを振り分けて用いることもできます。

〈～〉に第２カギを用いた場合、第１カギの中でも第２カギを用いることができますので、ほかに支障がなければ、地の文でも、第１カギの中でも第２カギを用いるのが最もよいと思います。

〈～〉に第１カギを用いた場合は、第１カギの中ではふたえカギを用いるのが最も基本的な点訳方法ですので、異なる囲み記号を用いることになります。

２．p104　１．カギ類

第２カギの中に第２カギを書くことはできるでしょうか。

〈うん。“感受性を高めるため”って言われてた〉

〈“ほらね”って、どういう意味で言ったの？〉

のように〈～〉の中に“～”がある場合です。

１タイトルの中で、第１カギ、第２カギ、ふたえカギをすべて使用していて、上記の、中と外の囲み記号を両方第２カギに当てているのですが、もしこの書き方がよくない場合、どのような書き方が望ましいのでしょうか。

【A】

第２カギの中に第２カギを用いることを禁止するルールはありませんが、読みやすさの点から、お勧めはできません。ご質問の場合、外の〈～〉は会話文のようですので、外を第１カギにするのが自然ではないかと思います。原本の文脈から第１カギを用いることができない場合は、外を第２カギにして中の“～”をふたえカギにすることもできます。

３．p104　１．カギ類

ふたえカギについてお尋ねします。

「てびき３版」ではふたえカギは墨字の『～』に対応していました。ところが４版では、第１カギ・第２カギの中でカギ類が必要となった場合しか使えなくなり、カギ類の中以外で使えるのは書名など限定的となりました。３版からの変更点である墨字の形に対応しなくなった理由を教えてください。

【A】

「てびき３版」では、《第１カギ・ふたえカギは、墨字の「～」・『～』にほぼ対

応させ～》となっていました。「完全に対応させ」とは書かれていません。それは、「３版」発行当時は、墨字でも、ほぼ、正しいカギの使われ方がなされているという前提だったからです。

墨字でも、「～」は地の文に用いられ、『～』は「～」の中に用いられるのが基本的なカギの使い方です。墨字の原稿用紙の用い方や、各新聞社の規則では、『～』はタイトルなど以外は、「～」の中にのみ用いることになっています。

ところが、近年は「てびき」の「ほぼ」の表現が忘れられ、完全に対応するかのように解釈されるようになってしまっていました。

日本の点字の規則を決定している「日本点字表記法」でも、《会話文または引用する文や語句は、前後ろを第１カギで囲んで書き表す。それらの中に更にカギ類が必要であればふたえカギで囲んで書き表す。･･･第１カギと区別して他のカギを必要とする場合には第２カギを用いる。･･･》となっています。

最近の墨字の印刷物は、カギが本来の用法で用いられていなかったり、「～」『～』だけでなく、“～”や《～》〈～〉など多様な囲み記号が用いられ、点字のカギ類と形の上で対応させて用いることはできない状態になっています。

このようなことから、「てびき４版」では点字の記号を書き表すルールとして、「日本点字表記法 2018年版」に準じることとしました。

もともと、点字の記号類は、墨字とは形の上で対応させることはできません。これはカギ類だけでなく中点や波線などでもそうです。形の上での対応ではなく、用法・機能を考慮して対応させることになります。

４．p105　１．カギ類

「てびき」には、第１カギの中にカギが使われる場合はふたえカギを用いるのが基本とあります。

しかし「てびき」「カギ類」p105の中に次の例があります。

将来の”夢”を発表する時間に、「ぼくの”夢”は宇宙飛行士です」

この点訳として、第１カギのなかの、カギが必要なコーテーションマークのついた夢には第２カギが使われています。これはその前の文の夢に第２カギを用いているからなのでしょうか。それともコーテーションマークがついた語は第2カギでもよいのでしょうか（以前はこういう場合第２カギを用いていました）。

【A】

これは、前の文の“夢”に第２カギを用い、第１カギの中の“夢”が、それと同じことを指しているので、このような場合は、第１カギの中でも第２カギを用いた方が自然であると考えられる例として示したものです。

「第１カギの中にカギが使われる場合はふたえカギを用いるのが基本」ですが、第２カギは、必要な場合は、カギの中でなくても、カギの中でも、どちらでも使用

できる記号ですので、「てびき」の編集上、その例も示さなくてはならないために考えたものです。

コーテーションマークには第２カギを対応させることを示した例ではありません。一冊の本を点訳する場合は、いろいろな場面が出てきますが、「てびき」の用例はごく限られたスペースに短い文の中で、規則に適した例を示すので、多少強引なところもあることも事実です。

ですので、そのようなことも考え合わせた上で、「てびき」の用例をご覧ください。

５．p104　１．カギ類

『「サピエ図書館」登録点字文書製作基準』のように、原文で『～』の開き記号に続けて「～」がある場合、ふたえカギと第１カギを入れ替えたほうがいいでしょうか。著者紹介の書名でも『「～」～』のように使われていますが、外側を第１カギ、なかをふたえカギにしてもいいのでしょうか。それとも中のカギを第２カギにするのでしょうか。

【A】

この場合、外側の『～』はタイトルを囲んでいると考え、ふたえカギを用い、中のカギを第２カギにするのが、自然な点訳と思います。

ただ、「製作基準」は、『点訳のてびき』『坊っちゃん』といった図書ではなく、資料集であるという判断で、外側を第１カギ、中をふたえカギにすることもできます。図書と資料集などを厳密に区別する必要がある場合は、このような点訳方法もありますが、一般書では、タイトルが『～』で囲まれていれば、ふたえカギを用いてよいと思います。

６．p106　２．カッコ類

（中略）の、前後のマスあけについての質問です。

白い襟付きシャツをノータイにし、革ジャンパーを引っかける。（中略）アランドロンのは背広型になっている。

この場合、句点の後は二マスあけ。（中略）後のアランドロンの前も二マスでよいでしょうか。「文中は一マス」の意味が分かりません。どのような時を言うのでしょうか。

【A】

ご質問の文の場合は、（中略）の前後ろ共に二マスあけでいいと思います。句点の後は二マスあけですし、後ろは「アランドロンのは～」と新たな文が始まっていますので、二マスあけでいいと思います。

（中略）で前後一マスあけになるのは、「てびき」ｐ107の６番目の例のように、明らかに一つの文の中に用いられているときです。

「てびき」の例のほか、読点や点線の後に（中略）があって、後ろに文が続いている場合は、一マスあけになると思います。

７．p106　2. カッコ類

二重カッコについてお尋ねします。「てびき」には第１カッコの中にさらにカッコ類が必要であれば二重カッコを用いるとありますが、それ以外の使い方をしてはいけないのでしょうか。原本に「駅名の次のカッコは開業年、末尾の〔～〕内が現在の所在地」とあり駅名が並んでいます。〔～〕は訳者註の時くらいしか使わず、カッコやカギに置き換えると習いました。このような時〔～〕の代わりに二重カッコを使ってはいけないでしょうか。

【A】

この場合、二重カッコは適切な使いかたではありません。

二重カッコは「てびき」p106にあるようにカッコの中にさらにカッコが必要なときに用い、一般にはそれ以外には用いられません。

ご質問の例の場合は、「末尾の〔～〕内」と言っているのですから、駅名の次のカッコと同じ第１カッコを用いても誤解はないと思います。説明も「マツビノ■カッコナイガ■ゲンザイノ■ショザイチ」と書けばよいと思います。

もし、他の文脈との関係から、同じカッコでは具合が悪い場合は、第２カッコを用いる方法もあると思います。

８．p106　２．カッコ類

本文中の空白について、教えてください。会話とは別に、夢の中での思いが〈～〉山カッコで書かれています。

〈　　〉

〈　　〉

〈　　それで私が…やっぱり　　どこへ〉

上記のように囲みの中が空白だったり、点線とは別に空白があったりします。本文中には点線も多く使われており、空白をどのように表記したらいいのか、迷います。点挿で空白と入れるか、凡例で断って３マス程度のマスあけにするのでしょうか。

【A】

空白の部分を点線にするのが最も一般的な方法です。第１カッコの開き記号だけを書いて、マスあけをして閉じ記号を書くのは、読みにくくわかりにくいので、避けるようにしてください。原文のスペースを表すためにマスあけを入れても意図が伝わりませんし、囲み記号の内側をマスあけすることや、１行の中に３マス以上の空白を入れることは規則上も誤った方法となります。

原文で、(　　)と(･･･)に特にはっきりした使い分けがなく、ともに無言や間を表すのでしたら、どちらもカッコの中を点線にするのがよいと思います。

９．p109　３．指示符類

「てびき」や「指導者ハンドブック」に、語句の指示として指示符を用いる例はありますが、一般書では強調の表現で使われることが多くあります。

「ハンドブック４章編」ｐ23には、「(強調表現の使用は)必要最小限度に」とありますが、どういう場合に使えますか。

強調や引用の傍点で、指示符の使える例を教えてください。

【A】

「指導者ハンドブック」のp23の表現は、「日本点字表記法」からの引用で、指示符類が日本の点字の記号として作られたときから、変わらない表現です。つまり、学術書や試験問題などで、語句や文の指示にどうしても必要になったので、「表記法」で記号として定めたものです。

ですから、一般書でも語句の指示には第１指示符を用いることはありますが、強調には、まず使用しないと考えてよいと思います。

一般書では、「ハンドブック第４章編」p21の練習１のように「傍点筆者」とある場合などで、傍点を囲む場合に使用できます。２番目の練習は、指示符の練習の所なので使用していますが、ここに指示符がなくても、あとの文脈で分かりますので、使用しなくても構いません。

「どの強調に用いるか」と考えていくと、墨字には非常に多くの強調表現がありますから、どれにも必要な感じがしてきます。しかし、指示符類を使用すると点字では読みやすさを損なう恐れが大きくなります。まずは、「一般書の強調表現には指示符は用いない」という方針で点訳に臨んだ方がよいと思います。その上で、傍点などが、その本の中で、明確なルールで強調に使われていて、文脈上、点字での煩雑さを考慮しても、どうしても必要と思われる場合などに、使用を検討されたらいかがでしょうか。

例えば、大阪という地名がその箇所だけオオザカと濁音の読みになっていて重要な意味があり、原文に傍点がある場合、指示符があればうっかり読み飛ばさず着目できると思います。また推理小説で、手紙やメッセージの中のある言葉に傍点があって、後からそれが大きな意味を持って来るような場合には、点字でも指示符を用いてもよいと思います。いずれにしても、ごく限られた場合と言えます。

10．p109　３．指示符類

今認知症に関する本を点訳しています。その中で、認知症の方の手記が書かれており、その一部に筆者が傍点を使って認知症の方の心の内を表しています。

傍点は語句についているため、読点、カギなどにはついていません。一つの文章と思われる時でも原文に従い、ついている語句だけを指示符で括って点訳した方がよいのでしょうか。または読点、カギに傍点がふられていなくても傍点がふられていると解釈して一度の指示符でまとめて括って点訳して良いのでしょうか。

【A】

一般的に、傍点は句読点や記号類には振られていない場合も多々あるようです。縦書きの場合、読点の横には振りにくい、また中にカッコで囲んで英文・単語などが入ると傍点を振るべき所でも振られていない場合もあります。筆者がどの範囲を指摘しているのかを判断して指示符を使用することになると思います。一連の心の内であれば、指示符を閉じたり、開いたりを繰り返すよりは、一つの指示符で囲んだ方がよいと思います。重要な語句を区切って傍点を振っているのであれば、語句だけを一つの指示符で囲むことになると思います。

11. p110　４．外国語引用符

一般書の中で、「Part１～３」という表現があります。その前には「Part１　Part２　Part３」とあります。「パートワンからスリー」と読むのが一般的と思いますが、これを点字ではどう表現したらいいでしょうか。４パターン考えられると思いますが、どれも問題があるように感じます。

他に表現する方法があれば教えてください。

①　Part１だけを外国語引用符で囲み、波線の後ろに数３と書く。

パートワンから３（さん）となってしまい、意味も変わってしまうように思います。

②　全体を外国語引用符で囲む。

全体を外国語引用符というのも、少々違うような気がします。原本で日本語記号の波線が使われています。

③　３の前にPartを補って、Part１～Part３とする。

これが一番誤解はないように思いますが、ここまで補っていいのかどうか疑問です。

④　Partだけを外国語引用符で囲み、その後ろに数１～数３と書く。

「パート　いち～さん」となってしまう。

【A】

①は、不自然な形になりますので、この方法は避けた方がよいと思います。

②～④は、どの方法も考えられますが、②の場合は、外国語引用符の中には波線は使用できませんので、範囲を表すハイフンに置き換えるのがよいと思います。

④の場合は、Part１などと単独で書かれているときと書き方が異なってしまうので、少し気になります。

③の書き方が、他と比較して、もっとも自然だと思われます。

12. p110　４．外国語引用符

英語と略称が書かれている文について質問します。

①ハビタット国際連合体（Habitat International Coalition　HIC　メキシコに本部をおく居住権擁護のNGO）は～

②ある本に製造物責任（Product Liability:PL)法に～

①、②とも略称である HIC・NGO・PLは縦書きに書かれています。この時の英語と略称は続いていると考えて略称まで外国語引用符で囲んで書いていいのでしょうか。「てびき」p47のコラム内、p138の「Wanted：An～」の用例とは違うと思いますがどうでしょうか。また②での「：」も英文中のコロンの扱いで点訳するのでしょうか。①の「Coalition」と「HIC」の間のスペースはスペル間のスペースよりも幅広くなっています。

【A】

①②とも、外国語引用符を閉じたあとに、外字符を用いて略称を書くのがよいと思います。

「てびき」p47の「コラム」は、「外字符で書くべき略称と外国語引用符で囲むべき外国語が複合した語」について述べていますので、この場合とは異なります。また、p138の例は英文の中での点訳を示しています。

①②は、カッコ前の語を英語で示した場合の書き方と、その略称を並列して書いていますので、英語で示した部分だけを外国語引用符で囲み、「：」は日本語点字の適切な記号（読点や棒線など）に置き換えるか、マスあけに代えるのがよいと思います。

①ハビタット国際連合体（引大Habitat■大International■大Coalition引■外大大HIC■■メキシコに■～の■外大大NGO）は～

②ある本に製造物責任（引大Product■大Liability引■外大大PL)法に～

のようになります。

13. p111　５．点訳挿入符

原本に、《「阿る」は「おもねる」と読む。》という一文があり、その点訳に悩んでいます。

２案考えました。

①「アソサンノ■アノ■カンジニ■オクリガナノ■ル」ワ■「オモネル」ト■ヨム。

「阿る」の字そのものを点訳挿入符はつけずに書き下した案です。

②「アル点挿アソサンノ■アノ■カンジニ■オクリガナノ■ル点挿」ワ■

「オモネル」ト■ヨム。

「ある」と読まないのですが、「ある」と最初に入れて点訳挿入符で説明を入れた案です。

①案のほうが違った読みが無くてわかりやすいのではないかと思うのですが、点訳挿入符無しでも漢字の説明は可能かどうか悩んだところです。やはり②案が無難でしょうか。また、他の点訳例があれば教えてください。

【A】

①も②もよく考えられた案と思いますが、①は、原文にこのように書いてあると誤解されてしまいます。②は、「阿る」は「ある」とは読みませんので避けた方がよいと思います。

以下、①と②を少し修正した形ですが、

A．①のカギ内を点訳挿入符で囲んだ形

「点挿アソサンノ■「ア」ニ■「ル」ノ■オクリガナ点挿」ワ■

「オモネル」ト■ヨム。

B．②を少し修正した形

「オモネル点挿アソサンノ■「ア」ニ■「ル」ノ■オクリガナ点挿」ワ■

「オモ　ネル」ト■ヨム。

のどちらかがよいと思います。少し回りくどくなりますが、Bの方が原文に近いと思います。

なお、「阿」を特定する説明に、「阿蘇山」以外に、「阿弥陀」や「阿修羅」などもあります。漢字を特定する際に、固有名詞の理解には個人差がありますので、注意が必要な場合もあります。

14. p111　5．点訳挿入符

もともとぼくには「辞書狂（教)」的なところがある。その「狂」が刺激を受けたのかもしれない。

この原文を点訳する場合、「ジショキョー（キョー)」点挿クルウ■オシエル点挿でいいのでしょうか。次の「狂」にも点挿クルウ点挿が必要でしょうか。また、(教)を勝手に省略してもいいものでしょうか。

【A】

「ジショキョー」点挿「キョー」ワ■「クルウ」、■カッコナイニ■

シューキョーノ■「キョー」点挿テキナ■～

ソノ■「キョー」ガ■～

上記のように考えてみましたが、前後の文脈にあっているでしょうか。

この場合「教」を「オシエル」と書いても、文意が通じないように思いましたので、このようにしてみました。

「辞書狂（教)」とあった場合、「ジショキョー（キョー)」と原文通りに書くとわかりにくくなりますので、点訳挿入符で漢字が二つ書いてあることを示せばよいと思います。

15. p111　５．点訳挿入符

主人公は正美といいます。彼女の父親が正美を主人公にした小説を書きました。ただ、本の中では、雅美になっています。最初に出てくる雅美にだけ、傍点がついています。この場合点訳挿入符で説明を入れる必要はありますか。漢字の説明をしても仕方ないような気もしますが、入れるとしたらどう説明するのか悩んでいます。

【Ａ】

小説の主人公の漢字を変えたことが、全体の物語の理解に重要な意味がある場合は、説明を入れることになります。

そうでなければ、漢字の説明は必要ないと思いますが、原文に傍点があるのであれば、そこの部分にだけ、漢字が異なることを入れた方がよいかもしれません。

雅美 点挿カンジガ■コトナル点挿

雅美 点挿「マサ」ノ■カンジガ■コトナル点挿

雅美 点挿「マサ」ヲ■「タダシイ」カラ■ユーガノ■「ガ」ニ■カエタ点挿

などが考えられます。

あるいは、雅美 点挿シュジンコートワ■カンジガ■コトナル点挿

などと入れた方が分かりやすい場合もあるかもしれません。

16. p112　６．段落挿入符

『指導者ハンドブック第４章編』のp30の例の回答p102を見ますと、７マス目見出しと５マス目見出しの間に段落挿入符で前文のようなものが書かれています。

この際７マス目見出しと５マス目見出しを行あけせず続けて書かれていますが、５マス目見出しの前を行あけすると間違いになるのでしょうか。p31のポイント解説にありますように、段落挿入符を使わない場合は行あけするということでしょうか。これまでこの種の前文は７マス目見出しの内容と考え、段落挿入符を使った場合も、５マス目見出しの前を行あけしていました。

【Ａ】

行あけしても構いません。

段落挿入符は囲みの記号で初めと終わりがはっきりしているので、見出しの上でも行あけしない例を載せました。また、４章ではまだ見出しの書き方も学んでいないので、単に記号を用いる練習という意味でもこのような形にしています。

５マス目からの見出しの前で１行あけて構いませんし、このような例で必ずしも段落挿入符を用いる必要はありません。

その３　線類

１．p113　１．棒線・点線　【処理１】

「＝」（イコール）は、棒線に置き換えるか、文脈によっては「イコール」と書くとなっています。用例をみると、どちらでもいい、ということなのかなとも思いますが、点訳者の「感性」でしょうか。

以下の場合、どちらがいいと、何か理由付けができるでしょうか。

①赤ちゃんは「いつもの人＝パパやママ」のことを「自分にとって大切な人」と認識する

②赤ちゃんに後追いをさせないというのは、保育＝保護・養育を、そこで一度やめてしまうこと

③治療は、がんばる＝耐える、という意味合いが大きく…

【Ａ】

ここの【処理１】は、「棒線に置き換えるか、《文脈によっては》～」ですので、まずは、棒線に置き換える。それで不都合がある場合に「イコール」と仮名で書くということになります。

その「不都合」が何かといえば

①　原文に、「＝」と棒線が混在して使用してあり、すぐ近くの棒線と「＝」の区別が付きにくいなどの記号処理上の不具合がある場合

②　会話文や、話し言葉の中で「＝」が使われていて、発音して不自然に感じるという表現上の不都合がある場合（「イコール」と発音した方が文脈上自然な場合）が考えられます。

例えば、

① この法則　－－　感情の放出＝涙　－－　が、適用されるのは～

のような場合や、文中注記符の付いた語と説明の間を棒線でつないだ直後に「＝」がある場合などが考えられます。

②　「頑張る＝耐えるとは言いきれないよね」と話した。

のように会話の中に出てくる場合は、「イコール」と書いた方が自然です。

挙げられた例は、「イコール」と書いても間違いとは言えませんが、上に書いたような「どうしても」の場合ではないように思いますので、棒線で書いてよいと思います。

２．p113　１．棒線・点線　【処理１】

「女性たちも働くこと（＝良いこと）」

この点訳をするとき、カッコ内の＝は省略してもよいでしょうか。昔の資料に「語の後ろに続けるカッコは、前の語の説明なので、カッコ内のイコールは省略してよ

い」とあった、という話をききました。

【A】

省略しなければならないということではありませんが、カッコが前の語の説明である場合は、多くの場合省略しても構いません。

前の語の説明(言い換え）と、イコール（すなわち）と同じ意味合いであり、記号を二つ重ねて書く紛らわしさを省く意味で、お勧めしています。

ただ、ご質問の文の場合、前の語だけでなく、「女性たちも働くこと」が「イコール　よいこと」と言っていますので、「＝」を仮名で「イコール」と書く方が分かりやすいかもしれません。文脈で判断してください。

３．p114　１．棒線・点線　「参考」

促音符についての質問です。文脈や発音を考慮して、位置を変更したり、省略したりすることがありますが、「促音」「長音」の順に点訳は可能ですか。

（例）ダイダイダイダイダイダイダイッ～キライ！

（例）ちっ～とも可愛くない

【A】

促音符、長音符の順では発音することが難しいですので、長音符と促音符の順序を入れ替えた方がよいと思います。p114の「参考」に、発音や点字としての読み取りやすさを考えて書くとありますが、ご質問の場合もこれに当てはまると思います。

４．p114　２．矢印

矢印の前のマスあけについて質問します。少年科学もので、句点を使わない説明文があります。

植物は雨や曇りの日は、あまり蒸散しない　→

この「シナイ」と　→　の間は、二マスあけでしょうか。

「てびき」ｐ152　6.（２）③の句読点を用いない文での文の切れ目になるでしょうか。読点はあります。

【A】

シナイ　と　→　の間は、一マスあけになります。

矢印の前後は、一マスあけです。ただ、例外は、これらの記号の前に句点がある場合とカギ類の閉じ記号で、句点を省略した（p132「参考」）場合で、記号間の優先順位に関するところです。矢印の前に、記号が無い場合は、文の終わりかどうかを考える必要はなく、一マスあけになります。

５．p115　３．波線　【処理２】

原本で、

「～歳からの哲学入門」と聞けば、小学生なら「７歳から」とか、中学生なら･･･とあります。

この場合第１カギに波線が続くことになります。波線を伏せ字に変えて点訳することはできますか。もしくは点線か棒線に変えるほうがいいのでしょうか。

【A】

この場合の波線は、点字で用いる波線の用法ではありませんので、何かほかの記号類に置き換えることになります。

棒線や点線でもいいのですが、「×歳から」「〇歳から」などと伏せ字に置き換えるのが自然ではないかと思います。

６．p115　３．波線　【処理２】

線類の使い方についてお尋ねします。

「もう一度ご説明します。まずは～」という文があります。この場合の「～」は棒線でも点線でもどちらでもよいのでしょうか。

「てびき」には適切な記号に置き換えるとありますが、棒線と点線に意味の違いはあるのでしょうか。

また、「あ、はあ･･･。」といった文もあります。この点線と区別して棒線の方がよいということはありますか。

【A】

棒線と点線は、「てびき」では、その区別を特に規定せず、墨字の棒線・点線にほぼ対応させるとしています。

墨字での棒線、点線の機能は、各新聞社の用語のてびきによると

棒線（ダッシュ）（－－で書きます）

①　文中・文末で間を持たせるため

例：1783年－－ゴヤ37歳のときだった。

例：真実はどこにあるのだろうか－－

②　箇条書きをまとめるとき

例：応募条件は①18歳以上②既婚－－など複数ある。

③　インタビューの問いの行頭

例：－－今年の目標は？

「もちろん優勝です」

④　区間・組み合わせ

例：東京－大阪間　　巨人－阪神戦

⑤　挿入

例：藤田さんはそのあいだを－－都市と自然の境目を－－描いています。

⑥　引用句を受ける

例：〈苦しいときほど人間が最も人間らしくなるときはない〉――作家・山本周五郎はエッセー「人生の冬自然の冬」でそう書いている。

点線　(リーダー)

①　言葉の省略や無言を表す

例：お年寄りが「喉が痛くて･･･」と言葉をつまらすと

例：「どうした？」「･･･」

となっていますので、墨字の記号を点字に置き換えるときの参考になると思います。ここから考えると

「もう一度ご説明します。まずは～」

は、言葉の省略ですので、点線が適していると思います。

ただ、点字では墨字に比べて記号の数が少なく、また、レイアウトにも制限がありますので、現実には、あまり厳密に使い分けができない事情もあります。

例えば、墨字のコロンや短いダッシュの代わりに、二マスあけや棒線のほか点線を用いたりする場合もありますし、点字の棒線は、イコールの代わりに用いられることもあり、多用されがちですので、棒線では区別が分かりにくいときに点線を用いたりします。このように、墨字の機能に注意しつつも、点字の特性を考慮して、棒線・点線を適宜使用することになります。

その４　伏せ字とマーク類

１．p116　１．伏せ字

伏せ字記号の「その他　⑤の点モ」は、どういう場合に使うのでしょうか。黒塗りの「▲」、「●」「■」などのどれにも使用してよいのでしょうか。

下記のように伏せ字で住所を記載してある場合、マスあけ・数符の位置など、どのように点訳したらよいでしょうか。

京都市○○区○○×丁目×番×

京都市○○区○○×－×－×－▲▲号室

また、以下の場合はどうしたらよいでしょうか。

床面積１階　×××．××㎡

鉱物標本１箱「△△△△」

【A】

点字の伏せ字は、墨字の伏せ字の形に対応させて用いるのが原則ですので、殆ど○、△、□、×で間に合うと思いますし、▲や■が用いられていても、原文に△、□が用いられていなければ、点字の△、□の記号を用いてよいと思います。

「その他」の伏せ字は、４種類の伏せ字を用いたほかに必要な場合の予備として考えておけばよいと思います。

墨字の伏せ字には、○・△・□・×のほか、下駄記号（〓）やアステリスク（＊）などが用いられることがあります。特に、４種類の伏せ字とは異なることを示す必要がある場合には、「その他」の伏せ字記号を用いてもよいと思いますが、原本で用いられている伏せ字が＊だけであれば、それを伏せ字記号の×（⑤メ）で表して構いません。

○か×がもっともなじみのある記号ですので、分かりやすい記号を用いるのが点字の読みやすさにつながると思います。

数字の部分に伏せ字の○や×が用いられていても、特に数符を補う必要はありません。数字の一部が伏せ字であったり、数符の後で数字の中に用いる記号（小数点や位取り点など）が伏せ字の中に用いられている場合に、「てびき」p116　1.（3)にしたがって点訳します。ご質問の中では、床面積にだけ数符を用います。

ご質問の住所を点訳すると以下のようになると思います。

原文の内容と異なっているかもしれませんが、○○が文字、×が数字と考えて書いてみました。=　は第１つなぎ符、数は数符です。

▲号室は、数字かどうか分かりませんので、△記号を用いて前を一マスあけましたが、原文と異なっている場合は、原文に合わせてください。

キョートシ■⑤マ⑤マ=ク■⑤マ⑤マ■⑤メ=チョーメ■⑤メ=バン■⑤メ

キョートシ■⑤マ⑤マ=ク■⑤マ⑤マ■⑤メ=⑤メ=⑤メ■⑤ミ⑤ミ=ゴーシツ

床面積１階　数⑤メ⑤メ⑤メ②の点⑤メ⑤メ外mキ

②の点は小数点です。鉱物標本については、第１カギの中に⑤ミを原文の数だけ書きます。

２．p116　１．伏せ字

伏せ字記号以外のマークを伏せ字に用いている場合はどうしたらよいですか。

例１：＊＊市

例２：■■町

【A】

伏せ字の記号は、墨字の形にほぼ対応させますが、完全に対応させる必要はありません。

点字の伏せ字記号は、⑤の点にマ、⑤の点にメが最も一般的ですので、この原文でこれらの記号が用いられていなければ、⑤の点にマ、⑤の点にメを用いてよいと思います。これらが使われていれば、ほかの伏せ字記号を用い、４種類とも使われていれば、その他の伏せ字記号（⑤の点にモ）を用います。

３．p116　１．伏せ字　【備考２】

以下のような文があった場合、「京都 × SDGs」をどう点訳すればよいでしょうか。対抗戦の「対」のような意味で使われているのではなく、コラボのような意味に使われているのではと思います。

「〇〇市 × SDGs」をテーマに、SDGsのうち最も興味のある項目を

「My SDGs」として選び、より良い〇〇市をつくるために～

【Ａ】

「〇〇×SDGｓ」は、〇〇の部分にあらゆる組織を入れて、広範に使われています。ここは、「×」をそのまま「カケル」と読んだ方が分かりやすいと思います。

「京都創成■カケル■外大大ＳＤＧ外ｓ」

「外務省■カケル■外大大ＳＤＧ外ｓ」

などです。

その５　その他の記号類

１．p121　２．小見出し符類

以下の我が町の広報の記事の点訳についての質問です。ほぼ掲載記事のままに記します。

(時)３月２８(土)午前１０時３０分～正午(開場は午前１０時１５分)

(所)福祉会館(市民会館隣)

(内)曲目：いのちの歌、群青、パプリカほか、出演：若井有里亜(指揮)、西元真澄(ピアノ)、上原千穂(バイオリン)

(問) ▲▲少年少女合唱団　〇本　(電話) ０９０－××××－××××

以上の記事です。

実際の記事と全く同じには表せていませんが、ほぼこんな感じの記事です。

なお、(時)、(所)、(内)、(問)は、日時、会場、内容、問い合わせ先の略記号を記事には使っています。

今回お伺いしたいのは、内容の曲目の箇所のコロンについての点訳です。

この場合のコロンの点訳をどのようにと迷います。

■■(ナイヨー)■キョクモク第１小見出し符■イノチノ■ウタ・・・

■■シュツエン第１小見出し符■ワカイ■ユリア(シキ)、■ニシモト・・・

の点訳でよいでしょうか。

それともコロンを

(ナイヨー)■キョクモク■ーー■イノチノ■ウタ・・・

と続けてよいでしょうか。
　また、「てびき」にあるように、二マスあけも可でしょうか。
　この記事が 「てびき」p123やp173の文例と同じ例であるのか迷い質問させていただきました。
　　【A】
　この項目の中では、（時）（所）（内）が大きい見出しで、曲目、出演はその下の見出しです。また、広報などではこのような小さいお知らせが、毎号決まった形式で大量に入ります。（時）（所）をカッコで囲んで書く書き方も毎号同じように点訳されていると思いますので、変えるわけにはいかないと思います。
　このような条件のもとでお答えしますと、小見出し符類は使えないことになります。二マスあけは分かりにくいので、棒線を使う方がよいと思います。
　または、「曲目」「出演」をカギ類で囲んで、そのあとを一マスあけにする方法もよいかもしれません。
　また、継続して点訳されているのであれば、このような書き方は毎号のように出てきますので、特例として（発行者に断って）、助詞を補って、
　「キョクモクワ■～。■■シュツエンワ■～」と書く書き方もあります。
　そのほうが分かりやすいのではないでしょうか。

２．p121　２．小見出し符類

　小見出し符の使い方で、「てびき」ｐ121のように行あけをせずに書く場合もあります。また、小見出し符を用いて書いた本文が終了して、次の小見出し符を使って本文を書く際に、前を１行あけて書くこともあります。
上記のように前を１行あけて書く用い方はどんな場合でしょうか。小見出し符の後の本文が点訳で５～６行に渡る場合など、何か基準があればお教えください。
　　【A】
　特に基準はありませんが、小見出し符は読み始めるときには印がなく、語や文を最後まで読んでから今読んだものが小見出しだったと後で分かるという特徴があります。ですから、原文で１行あいている場合はもちろん、小見出し符の後の本文が長い場合、見出しの種類が多く、本来なら５マス目から書くような見出しに小見出し符を用いた場合など、読みやすさを考えて１行あけるとよいと思います。
また、小見出し符の後、一マスあけで本文を書くのではなく、改行して次の行から本文を書く場合は、一つの小見出しの範囲が終わって次の小見出しに移る際に行あけがあった方が親切です。

３．p123　３．文中注記符

　注の説明を書く位置について質問いたします。

各章毎に注番号がふってあり、その説明が各章の最後に載っている原本です。点訳でも各章の終りに説明を載せます。章の途中で分冊した場合、注が記載された巻に、その説明も記載するのがよいと思いますが、章の途中で分冊した、巻の最後に、その巻記載の説明を載せてよいのでしょうか。また、章の途中で分冊した場合、注の番号を振り直す必要がないでしょうか。

【A】

原本の注に文中注記符を付ける場合、その説明の記載場所については、いくつかの方法がありますので、必要に応じて点訳書凡例で断わることになります。

原本の通りに番号を振って、原本通りの位置にその説明を載せた場合、文中注記符とその説明の巻が異なる場合も出てくると思います。

あくまでも原本通りにしてもよいですし、章の途中であっても、その巻の巻末に説明を載せてもよいと思います。たとえば、参考文献や引用文献のようなものでしたら、巻をまたいでも特に不便は感じないと思いますが、語の説明などで、どうしてもそこで注の説明を読んでほしいという場合は、巻末に入れてもいいと思います。

その場合、「てびき」ｐ124　(7)に準じて、点訳書凡例を付けた方がいいと思います。注の番号を振り直す必要はないと思いますが、注の数が非常に多い場合や、各巻巻末に説明を載せる場合などには振り直してもいいと思います。文中注記符とその説明が支障なく見つけられるようにすることが大切です。

４．p125　４．星印

朝日新聞土曜版ｂｅ１面に、

くまもと☆農家ハンター代表　宮川　将人さん（４１歳）

とあり、以下、本文が続いて、最後の文に、

名前の「☆」にそんな思いを込めている。

とあります。この星印は、どうすればいいでしょうか。

第１星印を使っていいでしょうか。二つめの星印は、使い分けが必要ですか。

【A】

この☆には、星印を使うことはできません。

星印は「てびき」p125にあるように、段落や箇条の「前」に用います。普通の文章では、行頭３マス目から書くことに決まっています。(挿入文などを全体に二マス下げて書く場合は、５マス目になります。)

ですから、この例のように語の間に用いられている場合は、マスあけに代えます。そして、必要な場合は点訳挿入符で、そこに星印が付いていることを説明します。この場合は、最後の文の関係で

クマモトト■ノーカノ■アイダニ■ホシジルシ

のような、説明が必要になります。

そして、最後の文は

ナマエノ■「ホシジルシ」ニ■ソンナ■オモイヲ■コメテ■イル。

と点訳します。

５．p128　６．スラッシュ　「コラム25」

外国の読み物を翻訳した原本に「何が起こることを望んで/期待していますか？」「その望み/期待は現実的ですか？」等質問になっている文があります。中点、マスあけなどで対処するのが一般的だと思うのですが言葉に置き換えることはできますか。または他にいい方法があるでしょうか。

【A】

スラッシュは、一般にはマスあけか、中点などの記号などに代えます。

この原本の場合は、原語では「or」の意味のスラッシュが用いられていて、訳者がそのまま「/」を使用しているのだと思います。

しかし、「望み」と「期待」は似たような言葉ですので、そのままマスあけや中点などで並べて書いても読みにくくはないように思います。この場合は、マスあけするか、中点を用いて並べて書くことをお勧めします。

これが、「期待」と「失望」や「on」と「off」のように、対義語であったり、二者択一を求めるような場合であれば、マスあけだけでは文の流れが不自然になりますので、何らかの工夫をしなければならないと思います。

この本で、ほかにもこのような「/」が用いられている箇所があり、文の流れが不自然になる場合には、以下のような方法が考えられます。

１．「てびき」p128の「コラム25」の「する/しない」のように全体をカギで囲む。「コラム」の例は、原本にカギがありますが、原本に無い場合でもカギで囲む。

２．「マタワ」「or」などをカッコ類で囲んで補う。

キタイ■（マタワ）■シツボー

３．英語の中学生の学習書などでは、he［she］is～　のように、英語の角括弧を用いたり、対応する訳文に　カレ（カノジョ）ワ■～デス。のように第１カッコを用いたりします。ただ、日本語のカッコ類は、英語の角括弧とは働きが異なり、前の語の注釈的説明の意味合いになりますので、このような場合以外はあまりお勧めしません。

その６　記号が連続する場合の注意

１．p131　１．記号間の優先順位

感嘆符と疑問符の後のマス開けと、点線と棒線の前後のマスあけについてお尋ねします。

(1) そもそも、これはまったく公正な話です。とはいえ、何とついていないことか！・・・　自分の不運を嘆くほかありません。

(2) どうして三年ものあいだ忘れられていたのだろう？・・・　とてもかわいい子で、パリ一番の別嬪さん（以下略）

(3) この思い出はひょっとしたらぼくの心につきまとう妄想なのかもしれない！－　さいわい、今馬車はプレシの路上で（以下略）

(4) お父さま・・・　具合がひどく悪いのです。

(1)～(3)の感嘆符・疑問符のあとと、点線・棒線の前後の書き方についてですが、(1)～(3)のように、点線のあと１文字分空白があり、そのあと新しい文章が始まっていた場合、墨字の表記方法に合わせて、１文字分の空白が開いているところを文末と判断してよいでしょうか。

《１》何と■ついて■いない■ことか！■・・・■■自分の■不運を（略）

《２》忘れられて■いたのだろー？■・・・■■とても■かわいい■子で、（略）

《３》心に■つきまとう■妄想なのかも■しれない！■－－■■さいわい、■今■馬車は（略）

《４》お父さま■・・・■■具合が■ひどく■悪いのです。

点線のあとの空白がなければ、文脈から判断し、記号の優先順位に則り、疑問符・感嘆符のあと二マスあけて、点線のあと一マスあけて新しい文章に入ると思うのですが、このように、墨字に１文字分空白があると、どこを文末と判断すべきか迷います。(4)は最後に句点が使用されていますが、点線のあと二マスあけにするのがよいかと思いましたがいかがでしょうか。

該当の墨字の本は、(1)～(4)の書き方が多々でてくるのですが、句読点は通常通り使用されています。また、棒線については、１文字分の空白がないところもあります。提示した《１》～《４》の書き方でよいか、墨字の１文字分の空白があった場合の考え方について教えて頂けないでしょうか。

【Ａ】

墨字の組み版の規則や、新聞の用字用語集、ＪＩＳなどを調べてみましたが、墨字の点線（リーダ）や棒線（ダッシュ）には二文字分用いるという習慣以外に規則らしいものは見当たらず、後ろを一文字分あけるという記載もどこにも見つかりませんでした。この空白は作者の意図的なものか、リーダが一文字分だけの場合、詰まった感じがするからスペースを入れたのか、ピリオドと誤解される恐れを感じて

スペースを入れたのか、実際のところ、判断はしかねると思います。
点訳に際しては、原文の記号の前後にスペースがあった場合も、点字の記号類の使い方のルールに従って点訳することをお勧めします。

(1) 何と■ついて■いない■ことか！■■・・・■自分の■不運を（略）

(2) 忘れられて■いたのだろー？■■・・・■とても■かわいい■子で、(略)

(3) 心に■つきまとう■妄想なのかも■しれない！■■－－■さいわい、■今■馬車は（略）

(4) お父さま■・・・■具合が■ひどく■悪いのです。

ご質問の文は上記のように点訳します。このように点訳してあっても原文の雰囲気を壊したり、誤読を招いたりするものではないと思います。

その７　体系の異なる点字表記

１．p136　１．英語　(1)

各章末に記載する２～３の参考文献は、邦訳が付記してある英文の参考文献と英文だけの参考文献があります。

「外国語引用符を用いずに行替えして書くことができる」とありますが、この処理を使用したほうがよいのでしょうか。それとも各々外国語引用符で囲んで記載したほうがよいのでしょうか。

文献の中に、以下のように、コーテーションマークで囲まれた部分とシングルコーテーションマークで囲まれた部分があります。

Nathanael J. Fast and Serena Chen, “A Simple ‘Thanks’ Can Tame the Barking Boss,” Psychological Science , October 30,2013,https://www.（以下、英文の続き略）.

原文中の「“　”」をシングルコーテーションマークに代えなくて原文のままでよいのでしょうか。

【A】

規則上は、外国語だけの参考文献の場合は、外国語引用符を用いずに書くことができます。なかにコーテーションマークがあったりすれば、さらに読みやすくなります。

ただ、日本文の一般書の中に参考文献が記載されている場合は、外国語の図書や資料だけでなく、日本語の文献が混じっていたり、ひとつの資料の中に外国語と日本語が混じっていたりします。ですから、すべてが外国語の文献でない場合は、一つ一つ外国語引用符で囲むことをお勧めします。

外国語引用符で囲んだ中にもコーテーションマークを使用することができますので、コーテーションマークを換える必要はありません。原文の通りに書きます。「てびき」p135　【備考】(2)を参照してください。

２．p136　１．英語

日本語文中の外国語と引用文献の書き方についてお尋ねします。コロン、スラッシュの使い方です。

ディアコニ（diakoni:swe/fin)は、牧師、墓地や建物の･･･

マクロ経済学的な教義である[Ferguson　2009：170]

【A】

英語の記号のルールに従って下記のようになります。

ディアコニ（引diakoni②⑤の点■swe④⑤⑥ヤfin引)は～

コロンは②⑤の点で後ろを一マスあけます。スラッシュは、「④⑤⑥ヤ」の記号で、前後のマスあけは原文の通りとします。この場合はスペースがありませんので、続けて書きます。

[Ferguson　2009：170]　この場合、外の角括弧は日本語文中のカッコですので、日本語のカッコ類（第１カッコ・第２カッコなど）を用い、前に続けて書きます。2009と170の間のコロンは、上に説明しましたとおり、②⑤の点を書き、後ろを一マスあけます。数字の間のコロンで、10:25などのように時刻を表す場合は、続けて書きますが、この場合はそれに該当しません。

３．p139　１．英語　「コラム26」

点訳中の「仮病の見抜きかた」國松淳和著の中に「11β-水酸化ステロイド脱水素酵素（11β-hydroxysteroid dehydrogenase)」という英文が出てきます

てびきP239でβは外引符の中では用いることは出来ませんとあります。そうなると外引符はhydro・・・からで良いですか。その場合11βのつなぎ符に続けて外引符で英文を書いてよいのでしょうか。

【A】

「てびき」ｐ239のギリシャ文字は日本語の中でのギリシャ文字なので、外国語引用符の中で用いることはできませんという意味になります。

英語では、以前は文字の前に②の点、大文字は④⑥の点を付けたのですが、ＵＥＢでは文字の前に④⑥の点、大文字の場合は、その前に大文字符を付けることになりました。

このようなギリシャ文字が原本に多く使用されている場合は、点訳書凡例で断って、英語のギリシャ文字を使用してよいと思います。その場合一般書でしたら以前のギリシャ文字の方がなじみがあると思います。

引数１１②ｂ③⑥hydroxy～引　となります。
点訳書凡例には、「外国語引用符の中のギリシャ文字には、②の点を前置した」のように断ればいいと思います。
　ギリシャ文字が出てくるのが、この１カ所だけの場合は、少し書き方が不自然になりますが
　数１１外④ｂ③⑥引hydroxy～引
と書くことになります。

４．p140　２．ホームページやＥメールアドレス　(4)

　長いホームページの行を移す場合、『区切りの良い箇所（ドッド、スラッシュの後ろ、アットマークの前など）で分け、…』とあります。
以下のようにドッド、スラッシュの記号の後ろがハイフンでつないである場合、どのようすればよいでしょうか。
　＊１　https://hbr.org/2014/09/how-to-deal-with-bullies-at-work
　行頭に文中注記符を書きます。
　　【Ａ】
　アドレスの行移しは、コロンや疑問符のような二マスの記号を分断することはできませんが、それ以外は、行移しを禁止する厳密なルールはありません。
ただ、読みやすさを考慮して、区切りのよいところで行うようになっています。ですから、ドット、スラッシュ、アットマーク等以外でも、「fukushimakenshakyo」のようにアルファベットが続いている場合でも、一般にマスあけしたいようなところで行移しをすることもあります。
　ご質問のアドレスの場合は、ハイフンの後ろで行移しをして構いません。

５．p141　２．ホームページやＥメールアドレス　【処理】

　一般書の中に、以下の英語の部分があります。
　“State of the Global Workplace Report 2013,” Gallup, http://www.gallup.com/services/178517/state-global-workplace.aspx.
　この場合、日本の情報処理点字記号を用いてアドレスを点訳すると解しました。処理の仕方として、
　引コーテーション大state・・・で始めて、Gallup,　の後ろを一マスあけて、http:から　aspx.　までを、アドレス囲み符号で囲んで書き、最後に外国語引用符の閉じ記号を書くのでしょうか。
　それとも、Gallup,　で外国語引用符をいったん閉じて、アドレス囲み符号を用いて点訳するのでしょうか。
　また、「てびき」ｐ135　(3) にあるように、英文中に、日本の情報処理点字記号

を用いていることを点訳書凡例等で断ったほうがよいのでしょうか。

【Ａ】

ご質問の文は、一文ですので、全体を外国語引用符で囲みます。

引コーテーションマーク大state・・・で始めて、Gallup,　の後ろを一マスあけて、http:から　aspx　までを、アドレス囲み符号で囲んで、その後に文の終わりを示すピリオドを書き、最後に外国語引用符の閉じ記号を書きます。

一般にＵＲＬの最後にドットはつかないようですので、これは文の終わりのピリオドと思われます。

また、「てびき」p141　【処理】にあるように、一般書の中の英語部分にＵＲＬやＥメールアドレスがある場合、日本の情報処理点字を用いて書きますので、点訳書凡例などで断る必要はありません。

６．p140　２．ホームページやＥメールアドレス

以下の点線の部分の処理はどうなるでしょうか。

https://togett……。

このURLには続きがありますが、その部分を点線で表しています。

togettで情報処理の囲みを閉じてしまうと、意味が違ってきてしまうと思います。

伏せ字をxxx　（エックス）という処理はありますが、xxx に置き換えるのも違和感です。

【Ａ】

https://togettで一度アドレス囲み符号を閉じて、一マスあけて点線を書くしかないと思います。

この書き方で､URLの後半が省略されていることが伝わりにくいと思われる場合は、アドレス囲み符号を閉じた後一マスあけて点訳挿入符で｢アドレスの続きは省略｣｢これ以降省略｣などと書くのがよいと思います。

アドレス囲み符号の中では、一般の記号や語句を用いることができませんし、プログラミングでコメントを入れるときの記号などはありますが、アドレスには用いることができませんので、上記のような方法しかないと思います。

７．p141　３．数学記号

『数学・情報処理点字表記解説　2019年版』p66についてです。連立方程式などで数式の番号を行末に書く場合の点線について、１行に入らない場合、次行の一マス目から長い点線を書くことになりますか。目次のように15マス目からにした方がよいでしょうか。

【Ａ】

『数学・情報処理点字表記解説 2019年版』p66《注意》は今回新たに書かれた部

分ですが、数式番号まで１行に入らない場合の書き方については特に決まっているわけではありません。

１．数式が１行近くになる場合は、数式を１行に入れてしまわないで、等号などの関係記号の前で行移しをして２行に書くことによって、点線と数式番号を２行目の行末に入れる方法

２．数式を１行に入れて、二マスあけて数式番号が入る場合には、点線を書かずに、二マスあけて数式番号を入れる方法

３．目次の書き方と同じように、次行の15マス目から点線を書いて、数式番号を行末に書く方法

などの書き方があり、どの書き方でもよいことになりますが、点訳フォーラムとしては、１．２．３．の順にお勧めします。

８．p142　３．数学記号　【備考】

「＝」についてお尋ねします。

原本に、５元（当時、１元＝約１２円）という文があります。このような場合、「１元は約１２円」と点訳してもよいのでしょうか。「てびき」ｐ113には棒線に置き換えるか文脈によってはイコールと書くとありますから、「＝」を「ワ」とするのは間違いでしょうか。それとも「てびき」p142【備考】の、特に記号で表記する必要がない場合は、数学記号を言葉に代えて書くという事に当てはめれば「ワ」と書いてよいという事でしょうか。

棒線でも「ワ」でもどちらでもよいと考えてもよいのでしょうか。

【Ａ】

「てびき」p113【処理１】は、語句が「＝」でつながれている場合について述べており、p142は、数式の「＝」の場合を述べています。１元＝約１２円は、p142に当てはまりますので、「ワ」と書いてよい場合です。

数式の「＝」は、棒線、「イコール」「ワ」のどれも用いることができますので、文脈や読みやすさから判断してください。

９．p145　５．理科記号

英文中の　NO2　（２は下付き文字）をどう表せばいいでしょうか？

以下の書名のタイトル中にあります。

National Patterns in Environmental Injustice and Inequality: Outdoor NO2 Air Pollution in the United States

日本語の理科記号を使ってはいけないのではないかと思ったのですが、ではどうすればいいのか、わからないでいます。

【Ａ】

一般書については、理科記号も情報処理用点字記号同様、日本の理科記号を用いることが、お勧めになっています。「初歩から学ぶ英語点訳四訂版」ｐ159の記載をそのまま用いてよいと思います。ですから、⑤⑥大Ｎｏ②③　となります。